

相互評価への取り組み

～看護技術のチェックを通して～

医療法人千徳会 桜ヶ丘病院
奥田都茂子 林好加 濱真理子 成川暢彦

【はじめに】

当院は県下で唯一、特殊疾患病棟を有する慢性期病院である。パーキンソン病などで食事介助が必要な患者も多く、そのポジショニングには知識や技術が求められる。

しかし、ポジショニングの方法は看護師個々に任されており、注意しなければいけないポイントは押さえられていても、他者から指導、評価されるという機会は少ない。

そこで今回、食事介助におけるポジショニングの技術チェックに視点を置き、看護師間で相互評価を行った結果、技術の向上が図れたので、ここに報告する。

【研究内容】

研究期間:2021.9月～2022.1月

研究対象:5階病棟看護師16名

研究方法:

- 1.病棟スタッフを対象に、食事介助におけるポジショニングの勉強会を実施
- 2.患者の食事介助の際に独自で作成したポジショニングチェックシート(事前のチェックからスタッフの弱いところを主にピックアップした形)を用いて看護師相互で技術チェックを行う。その際お互いに良かった点や出来ていなかった点をコメント欄に記載した
- 3.ポジショニングの技術チェックを各個人5回実施
- 4.ポジショニングチェックシートから点数化を図り、最終、第3者が再びチェックし初回時と比較した

【倫理的配慮】

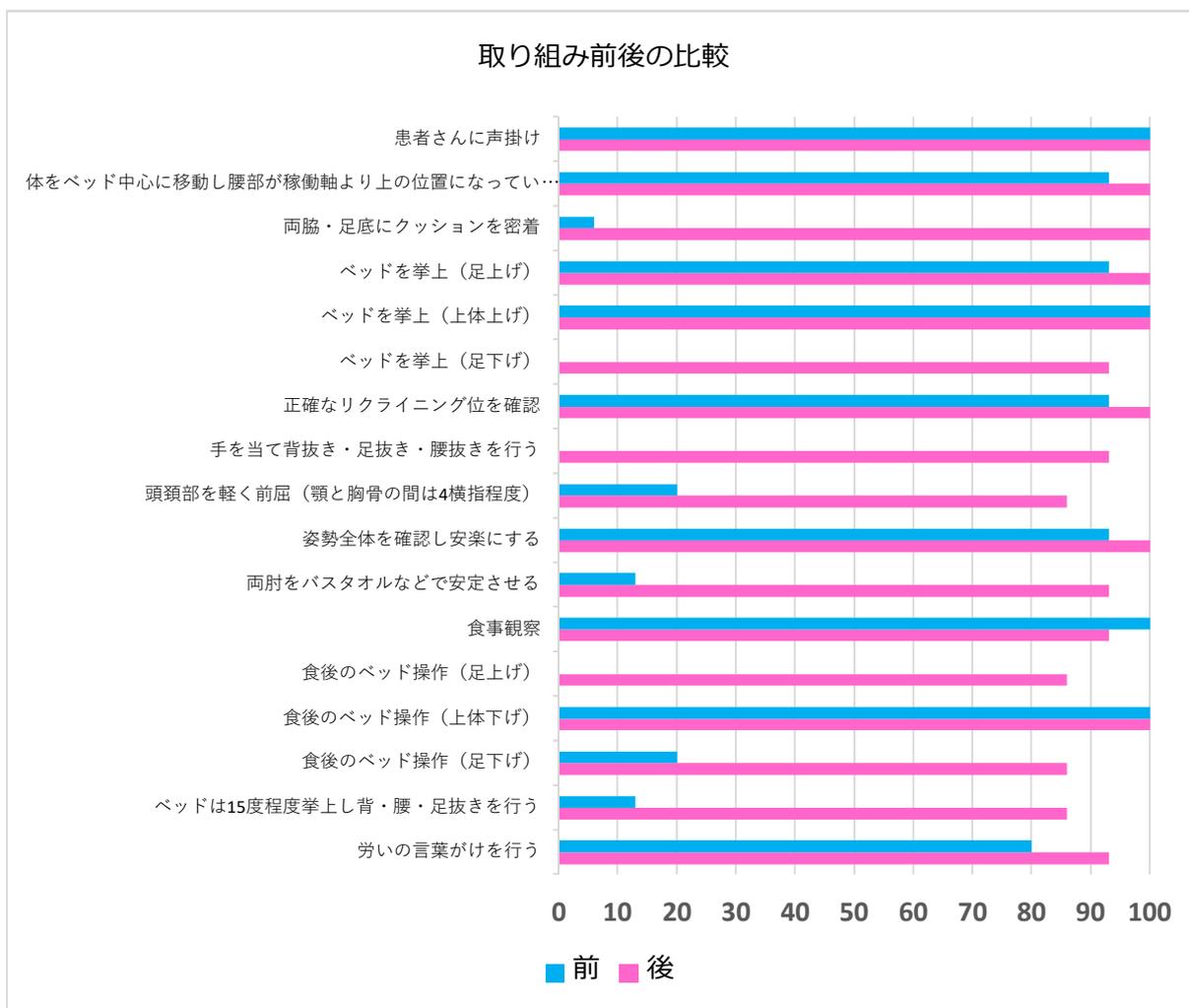
得た情報は研究以外に使用せず、個人情報には十分配慮する

【結果】

病棟の背景として、病棟の看護師の平均年齢は43.4歳、経験年数は1年目から40年で平均21.7年であった。看護師として他者からの技術チェックを受けた機会(新卒を除く)のあった看護師は35%であった。中途採用時に看護技術チェックを受けることはあっても、新入職時以降はその機会がなかったスタッフのほうが多く見られた。

ポジショニングの技術チェックの結果、取り組み前後の達成率は、取り組み前54%の達成率が

取り組み後 94%に上昇した。特に圧抜きやベッド動作、体位の保持に関する達成率が上昇し、スタッフ間で同一の行動が取れた。



相互評価の取り組みに対しては、当初、ポジショニングが上手く出来ていないのではないかと不安や、他者に観察されることへの羞恥心を感じられる発言が聞かれたり、コメント欄にも、出来ていない項目の反省点などが多く見られた。しかし、技術チェックの回数を重ねると、自身の手技を声に出して確認しながら実践するなど、手技獲得のため、個人で工夫する姿が見られた。また、コメント欄には、患者の個別性を考え、チェックシートの項目にとらわれず、患者に必要なだと考える理由なども記載されるようになった。

同様に、チェック者も最初はチェックシートの項目に準じ、簡単なコメントしか記載されていなかったが、回数を重ねるにつれ、「枕の後ろにもう1つバスタオルを込めば安定すると思う」「体幹がねじれている患者なので、ギャッジアップの前に体位を整えるとよい」など、具体的な意見が変わっていった。さらに、「患者への配慮が参考になった」「声掛けのタイミングがよかった」など、技術チェック以外の意見も記載されるようになった。

また、定期的なカンファレンスでポジショニングについての話し合いも行われたが、相互にチェックする際に 2 人だけでミニカンファレンスが行われ、会話も増え、リアルタイムにアドバイスを受ける場となり、「ここが難しい」という共通の認識を持つことができた。

【考察】

当院では経験年数の高い看護師が多く、他者から看護技術を見られる場面は少ないのが現状であった。今回、看護師が相互に評価することで、普段見ることがない他者の手技動作を観察する機会となった。ただチェックし合うだけでなく、相互にコメントを記載することで、徐々に対話を促進し、技術チェックだけでなく、指導的な意見も加わり、また、手技獲得に向けた個人の工夫も見られた。

これは、学習方法と定着率の関係を示すラーニングピラミッドで、「他人に教える」までは至らなくても、「実演を見る」「他者と議論する」「実践による経験、練習」に含まれ、他者の看護技術を見ること、他者と話し合うこと、実践を繰り返し行うことに繋がり、ポジショニング技術の向上、定着が図れたと考えた。

また、取り組み当初、スタッフ間において、お互いに指摘、指導することに対し消極的であり、お互いをチェックしあうことの甘さが危惧された。しかし、「相互評価は評価が高くなる傾向はあるが、ポジティブなフィードバックはやる気にもつながる」と言われているように、他者の良い面を見つけることは自身の振り返りにもなり、次第に個人レベルのスキルアップにつながった。技術チェックの達成率が上昇するだけでなく、前向きな意見も聞かれ、相互評価の役割を果たせたと考えた。

【まとめ】

相互評価は自らを見直す機会となり、看護技術の向上に繋がった。